

社会福祉法人創思苑
2019年度 事業報告

1 はじめに

当事者と、共に歩む

2019年度は、社会福祉法人創思苑が運営を開始して、26年目に当たる年度でした。その年度に、第25回ピープルファースト大会を、パンジーが中心になって大阪で開催したことには、法人にとっても大きな節目になりました。これからの25年間も、「どんなに障害が重くても地域でふつうにくらす」「自分で決める」をめざして実践を続けることを決めたのです。

■ベースを作る・・・玄米ご飯と、歩くこと

ここ数年、糖尿病などの生活習慣病になる人が多くなりました。生活習慣病は、偏った食生活・運動不足・ストレスなどが原因で起こると言われています。そこで、法人としてできることとして、「白米を玄米に変える」「砂糖を使わない」「オーガニック調味料を使う」「歩く」を1年間続けました。

「歩く」は、天気や思わぬでき事に左右されて歩けない日があります。食事は、始めたころは、「玄米きらい!」「甘いものが食べたい!」などのブーイングがありました。しばらくすると、ほとんどの人が玄米を食べられるようになりました。そして、数か月たったころには、「体重が減った」「血糖値が下がった」「肌がきれいになった」などの声を聞くようにもなりました。

これからも継続をして、コロナに負けない免疫力を、みんなにつけてほしいと思っています。

■パンジーメディアの活動

パンジーメディアは、5年目を迎えます。今では、最初の予想を超えて、メディアに関わることを希望する当事者が多くなり、日々の活動の中にしっかりと根付いています。『私の歴史』は、文字を読めない人の出演希望が多くなっています（詳しくはメディアの事業報告を読んでください）。『パンジーキッチン』では、普段はあまり話さない人が、お客さんの役割を果たそうと、精一杯、料理の感想などを話しています。これからも、知的障害を持つ人たちの希望や思いが伝えられるように、活動を充実していきたいと思っています。

また、2018年のアンナプルナベースキャンプトレッキングが、ドキュメンタリー映画「青い空と白い雪がくれたもの」として完成しました。次年度は、全国の映画館での上映や各地での上映会を予定しています。また、メディアの作品を持って定期的に事業所などに出向き、一緒に「きぼうのつばさ」を見たり、意見交換をしたりしながら、当事者同士のつながりを作っていきます。

■ピープルファースト活動

今回の大会は、ピープルファーストの25年間の活動を振り返りながら、誰もが地域でふつうに暮らすためには、今後何を必要とするのかを、ピープルファーストの4本の柱、「入所施設をなくす」「差別・虐待をなくす」「地域生活のサービスをふやす」「なかまをふやす」にそって話合う大会になりました。

次回大会は開催地が決まらずに2年後になりましたが、「津久井やまゆり園事件」の植松被告の判決を前にした2月20日、神奈川県に「障害福祉のあり方について当事者の立場からの要望書」を提出しに行ってきました。急な呼びかけでしたが、450人が集まりました。事件から3年半が過ぎているのに、やまゆり園でくらしていたおよそ150人の内、3人しか地域移行ができていません。当事者の今後については、何も解決していないのです。要望書提出後、「津久井やまゆり園事件」について記者会見を開き、やまゆり園でくらしていた人たちも地域でくらしてほしいことを伝えました。会見に参加した記者でさえも、「知的障害者に先入観を持っていたことや、知らないことが多いことに気づいた」と、会見後話してくれました。当事者の思いを伝えることの大切さを改めて認識した1日となりました。

このパワーを、ジュネーブで開催される国連の「障害者権利委員会」による日本の障害者施策の審査につなげたいと思っています。

■終わりに

新型コロナウイルスが、新年早々から全国に感染を広げています。法人でも、次第に外での活動や会議を中止し、室内で過ごすことが多くなりました。今後、これまでのような活動をいつ再開できるのか、不確定な部分が多くあります。

今の時期は、一人ひとりの健康に留意しながら、活動が開始できる日に向けて、準備を進めたいと思っています。

(理事長 林 淑美)

2 創思苑 概要

1. 長期借入金

クリエイティブハウス「パンジーⅡ」

社会福祉法人医療事業団 設備資金借入金 50,000,000 円

2019年度分 2,500,000 円を10月に返済し、借入金は返済が終わった。

利息 52,500 円。大阪府社会福祉協議会利子補助金 27,000 円

2. 理事会・評議員会

○2年の任期が終わったため、理事会及び監事の改選を行った。

○ 理事会については、以下の通り開催した。

2019年度第1回理事会 2019年6月20日

2019年度第2回理事会 2019年11月7日

2019年度第3回理事会 2019年3月17日

○評議員会を次の通り開催した。

2019年度第1回評議員会 2019年6月20日

2019年度第2回評議員会 2019年12月11日

2019年度第3回評議員会 2020年3月（コロナウイルス感染予防のため書面決議）

3. 利用者の状況

①日中活動・・・2019年度の開所日は、年間261日

○クリエイティブハウス「パンジー」 生活介護 定員32名

月別平均利用数（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31.0	31.5	31.5	31.8	30.1	31.1	31.3	31.3	31.6	31.3	31.0	29.2	31.1

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	0	731	2,484	4,890	5.39	31.1

○クリエイティブハウス「パンジーⅡ」 生活介護 定員 36 名

月別平均利用者数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30.9	29.2	30.2	29.5	27.4	29.0	28.8	29.5	28.9	29.0	29.2	27.3	29.1

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	238	1,432	1,714	4,202	5.23	29.1

○はっしんきちザ・ハート (従たる事業所・ 定員 6 名)

月別平均利用者数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6.9	6.8	6.9	7.0	6.5	6.9	6.8	6.7	6.9	6.7	5.4	4.0	6.6

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0			247	1,239	5.59	6.6

○クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 生活介護 定員 30 名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28.4	29.6	29.1	29.9	27.3	29.4	29.0	29.7	29.5	29.0	28.5	26.1	28.8

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	972	2,806	1,846	1,888	4.54	28.8

○クリエイティブハウス「パンジーⅤ」生活介護 定員 10 名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2.0	3.2	3.0	3.0	3.5	4.2	5.6	5.9	6.0	5.9	5.8	7.8	4.6

区分別利用者延人数/生活介護のみ (人)

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	35	352	767	49	4.67	4.6

○クリエイティブハウス「パンジーV」就労継続支援B型 定員10名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1.0	1.0	1.0	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	1.1	1.0

②グループホーム（共同生活介護） 定員81名 24住居

8月1日より、新しく自立ホーム「さくら101」（定員3名）をスタートさせた。

○3月の利用者の状況

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均区分
2019年度	4	5	15	15	37	76	4.92
2018年度	5	5	14	13	35	72	4.94
2017年度	6	5	14	10	33	68	4.87

○年齢 ※（）は前年度

～29歳	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	平均年齢
4(4)	12(10)	37(36)	12(14)	11(8)	47.4(47)

4. 職員関係

①職員の採用・退職状況（3月末の数）

	職員数	育休・休職者	入職者	退職者(年間)
2014年度	59	2	5	8
2015年度	55	1	6	3
2016年度	59	0	10	8
2017年度	58	2	8	7
2018年度	58	0	7	7
2019年度	62	0	9(3)	5

※入職者のうち、() は、パンジーV。

②研修について

1, 内部研修

- ・支援について考える日 各場の取り組みから（11月21日）
- ・メディア勉強会
 - 第1回（4月17日）・第2回（5月16日）・第3回（6月19日）
 - 第4回（7月17日）・第5回（9月11日）・第6回（10月16日）
- ・新人研修 4月11日 当事者支援について
4月25日 社会人としての心得・障害者の人権について
- ・初任者研修 5月31日 当事者支援について
7月24日～7月26日 高松で当事者と共にワークショップ
10月23日～10月24日 高松で当事者と共にワークショップ
1月9日 RDIについて
1月22日 当事者の歴史を知る
- ・中堅以上研修 6月24日～6月26日 高松で当事者と共にワークショップ
8月30日 当事者主体について
1月16日 RDIについて
- ・メディアワークショップ
11月13日、11月27日、12月4日、12月18日、1月15日、1月29日、
2月26日、3月13日、3月25日
- ・対大阪府交渉勉強会 7月4日
- ・「大阪府利用者支援のガイドライン」を元にした勉強会（年1回）
- ・救命救急講習会（6月10日、6月11日、6月22日、6月27日）

2, 外部研修

- ・東大阪市保健センター

- ・東大阪市事業所連絡会研修
- ・東大阪市障害児・者施設連絡会研修
- ・東大阪の障害福祉を考える実行委員会
- ・障大連グループホーム世話人研修
- ・東大阪市療育センター公開セミナー
- ・感染症予防対策研修
- ・サービス管理責任者研修
- ・強度行動障害研修基礎編・実践編

③外部会議への参加について

以下の会議に参加し、積極的に情報交換等を行い職員の意識の向上を図った。

- ・ピープルファースト大阪会議
- ・ピープルファーストジャパン会議
- ・東大阪市自立支援協議会
- ・相談支援連絡会
- ・障大連東ブロック会議
- ・東大阪市障害児・者施設連絡会
- ・東大阪市事業所連絡会（幹事会・グループホーム部会・短期入所部会）
- ・東大阪市共同受注会幹事会

5. 年間行事・運動等について

- 5月…パンジーまつり／東大阪ふれあいまつり／保護者懇談会
- 6月…職員健康診断
- 7月…対府交渉・デモ行進
- 8月…パンジーアワード
- 9月…パンジー旅行（淡路島）
- 10月…東大阪市ふれあいのつどい／保護者懇談会
- 11月…保護者との親睦会／ピープルファースト大会 in 大阪／インフルエンザ予防接種
- 12月…クリスマス会／健康診断

3 リスクマネジメント委員会報告

1、委員会の開催

4月、10月、12月

年間を通じて起きる事故については、リスクマネジメント委員会で丁寧に話し合いを行い、必要などときには、委員が各場の職員会議に参加するなどをして、事故の要因分析や、創思苑が大切にしてきた当事者支援について話し合った。

2、「事故」「興奮時の緊急対応」「苦情」の年間件数（2019.4～2020.3）

	I	II	III	V	GH	居宅	SS	その他	合計
事故（ケガ・急病）		3	4	1	2	1			11
（異物混入）			1						1
（見失い）		5			3	2			10
（誤薬）	5	1	2		7				15
（誤嚥誤飲）		2							2
（車両）	6	7	8	4				4	29
（他傷行為）	5	2	2					1	10
（物損）	5	2	1	3	2				13
（紛失）	3	4	2		1			1	11
タイムアウト対応			1						1
頓服対応		11	2		1				14
苦情		1	1		3			2	7

【 事故 】

車両事故が2018度の14件に比べて29件と倍増している。そのうち接触が22件と多く、不注意等による運転ミスが大きな原因である。軽微な事故が多かったとは言え、車両事故は大事故につながりやすいため、改善していく必要がある。ケガについては支援者が一緒にいる中での転倒事故が多く、危険を予測しながらの支援が必要とされている。その他の傾向としては大きな変化はないが、全体的にコミュニケーション不足を起因とする事故が多い。現場の職員間での連携が足りず、当事者が出て行ったことに気付くのが遅れたり、保護者とのコミュニケーション不足から苦情に発展することもあった。

3、研修職員

・パート・アルバイトのすべてのスタッフを対象に、消防署による救命救急研修を実施した。

4 パンジーメディア

① インターネット放送局「きぼうのつばさ」放送内容

放送日	パンジーの眼	私の歴史	パンジーキッチン	ドキュメント
32回 4/26	障害者の命について考える	表孝子		ふたりの知的障害者～地域でくらすことの意味～
33回 5/24	ぼくころしたんじゃねえもの	岸田茂樹	だれでも作れる、かんたんクッキー	パンジー山岳部～新しいステージ～
34回 6/28		豊田瑛一	ちょっとぜいたくチャーハン	ドラマ「あのころ ぼくたちわたしたちは～第1回～」
35回 7/26	わたしら生きてたらあかんのか	大深克博	瀬戸内の魚りょうりにちょうせん	
36回 8/23	第3回 パンジーアワード ～みんなが活動したあかし～			
37回 9/20	特別企画「知的障害者が発信する意味とは！！」			
38回 10/25		成松真吾	あまくてほくほく、なると金時のスイートポテト	ドラマ「あのころ ぼくたちわたしたちは～第2回～」
39回 11/22	グループホームのくらし	小松原剛	もうすぐクリスマス かんたんおいしいローストチキン	魚つりに挑戦しよう！～千早川からのプレゼント～
40回 12/20	特別企画「私の歴史スペシャル 心のとびらをひらく～自由と成長～」			
41回 1/24	特別企画「ピープルファースト～25年のあゆみとこれから～」			
42回 2/21	相模原事件の裁判から見えてきたもの	岡本智	一人でもおいしい あったかなべ！！	ドラマ「あのころ ぼくたちわたしたちは～第3回～」
43回 3/27	特別企画「知的障害を持つ人が、ふつうにくらせる社会とは」			

② ホームページ・フェイスブック・パンジーだよりについて

運営サイト

創思苑「自分で決める！」年間ユーザー 6,000 セッション 9,686 ページビュー 29,578

パンジーメディア 年間ユーザー 2,937 セッション 7,335 ページビュー 34,996

映画「あいむはっぴい！と叫びたい」年間ユーザー 353 セッション 310 ページビュー 625

RDI コンサルテーション ——生きにくさを抱えた人たちへ

フェイスブック フォロワー 516人。昨年度末より52人増

5 当事者活動支援について

ピープルファースト大会が大阪で開催されるにあたり、パンジーのメンバーが主体となって活動をした。かえる会のメンバーは、ピープルファースト大会の事務局員が多かったので、ピープルファースト大会前後は大会の成功に向けて、ピープルファースト活動に集中して取り組んだ。

かえる会

かえる会では職員面接、理事会の提言について話し合った。職員面接では、新しい職員に面接を行った。職員面接の意味や、昨年度の理事会の提言で伝えた職員像について事前に話し合い、面接にいどんだ。

何度も練習をしてきた成果や、当事者リーダーの生田さんは職員の見解に対して具体的に突っ込んだ質問をしていて、生田さんの経験の深さと、当事者面接の深さを感じる事ができた。面接を受けた職員からは、「面接を通して普段の自分の関わりや支援を見直すきっかけとなった」という感想があった。

理事会への提言は、自分たちの活動で、弁当、パン、清掃には手当てがついているが、メディアの手当てがついていない現状を改善してほしいと意見があがった。メディアの仕事は情報を発信し、社会にメッセージを伝え続け、知的障害者への差別や偏見がなくなり、地域で当たり前前に暮らせるように活動する大切な仕事をしているのだから、意味のあるものだという意見があった。この意見を理事会に伝え、2020年度からはパンジーメディアの仕事にも手当てがつくことになった。

グループホーム当事者会議

グループホームで暮らす当事者から、グループホームで困っている事への意見が出た。介護者が必要以上にルールを作っているということだった。臨時のかえる会を開き、グループホームのメンバーにも参加してもらい、何が困っているのか、今後どうしていくのかを丁寧に話し合った。

介護者や職員に対して困っていることを言うのは簡単ではなかったが、他の当事者に励まされて、意見を言うことができた。当事者から出された意見を創思苑事務局に伝え、介護者の入れ替え、不必要なルールの撤廃、そして今後、当事者を管理するようなルールを作らないことを確認した。

当事者から、これからもグループホームについて話し合う会議を行いたいという意見があり、月に一度グループホーム当事者会議を開催する事になった。18人のメンバーが参加した。話しやすい雰囲気の中、徐々に当事者が発言をするようになり、3月の会議では、すべての人がグループホームでの生活について意見を話した。

特に、介護者に寝る場所は、きちんと守ってほしい、当事者をGHで待たせて、買物にいかんといしてほしい、部屋に勝手に入らんとしてほしい、介護者が予定と変わるときは、事前に言っほしいなどの意見が出された。

これらの意見はすべて事務局や職員に伝え、介護者と話し合い、改善されている。今後も、当事者がしっかり意見を言える会議を目指していきたい。

ピープルファースト活動

第25回ピープルファースト大会 in 大阪

2019年11月29日から2日間にわたって、大阪国際交流センターで開かれた。参加した当事者・支援者、関係者らは1065名。25回目の記念大会ということもあり、全体会ではピープルファーストが日本でどのように広がっていったのかを参加者全員で共有することから始まった。

海外のピープルファーストとの交流を通じ、日本の当事者が刺激を受け、大会を始めたことや、25回にわたる全国での開催のなかで、仲間が増えていったことなどが動画で紹介された。またピープルファーストが大切にしてきた4つの柱「入所施設をなくす」「差別・虐待をなくす」「地域生活のサービスをふやす」「なかまをふやす」についての発表もされた。

開催にあたって、パンジーに大会実行委員会事務局を置いた。大会実行委員長の山田浩さんのもとに約10名の当事者と4名の支援者が集まり、大会開催の10か月前から毎週火曜にピープルファースト会議を開いて大会の内容を話し合った。会議では最初は参加者が申し込む弁当の内容から検討をした。全部で200種類ぐらい候補があり、あれこれと話し合うなかで決められていった。その後、議題は大会テーマやお金のことなど、大会に関わるすべてのことを会議で話し合い、当事者にとっては難しいこともあったが、会議を積み重ねることで一つ一つ解決することができた。

大阪府内の当事者・支援者が集まる現地実行委員会も定期的開催し、役割分担をしながら進めていった。これまでピープルファーストに関わってなかった人が大会で司会者をするなど、新しいつながりもつくることができた。

当事者講演会活動

日程	依頼先	講演内容
5月19日	自立生活支援センター「わくわく」	ガイドヘルパー養成研修
6月29日	(社福) ふくふく福祉会	活動報告 PF大会、当事者活動
10月9日	城東区ほっとステーション	ピアフェスタ in 城東「元気がでる話」
11月9日	寝屋川市立明和小	寝屋川リバティフェスタ
12月11日	東大阪市立意岐部中学校	3年生「聞き取り学習」
12月17日	東大阪市立荒川小学校	1. 2年生対象人権学習
1月30日	東大阪市立荒川小学校	4年生対象人権学習
2月6日	(社福) ふくふく福祉会 スマイルふくふく	当事者活動について

※3月12日に予定していた新規の東大阪市立成和小学校3年生の講演は新型コロナの影響による休校で新年度に延期。

小中学校では、人権学習の依頼で、当事者の生い立ちや経験が子どもたちに伝わる機会が増えた。ゲームや質問タイムなどの交流、パンジーメディアの映像、そして当事者の生の声も含めた講演は、印象的でわかりやすい内容となった。

他事業所からは、当事者活動や「元気がでる話」を当事者から当事者に伝えてほしいという依頼があり、当事者同士のつながりが広まった。

今年初めて講演会活動に参加したパンジーⅢ当事者の井道さんと中谷さん。井道さんは声を出すことはできないので、「カナトーク」という音声発生型意思伝達アプリで自分の思いを入力して伝えるスタイル。中3という多感な時期の生徒からは「井道さんの使っているタブレットがハイテクですごいなあと思った」と、好印象だった。生徒からの質問に返答を事前に入力して伝えるなど準備に努力していた。「〇〇中学校に行くのが決まりました。車に乗る前からどんな生徒さんに会えるか楽しみでした。元気いっぱいであざけられそうに見えました」とのぞんだ講演会後の井道さんの表情は晴れやかだった。

中谷さんは、原稿作成の時、自分から『母との話の部分は絶対に入りたい』など自分の歴史や講演の原稿に対して強い気持ちを見せていた。本番は緊張していたが、はっきりとした口調で堂々と話していた。「話を聞いた小学生はどう思ったかな？ 質問がたくさんあって答えたけど、みんな分かったのかな？」など、どう伝わっているのかを考えて話している様子が印象的だった。メディア活動の「私の歴史」を経験した当事者の中に、自分の原稿を大切に作っていく過程と自分の思いを伝えたいという強い意思がしっかりと根付いていた。今後もこの経験を生かしていきたい。

●感想より

パンジーのことを初めて知り、すごいなと思った。障害を持った人の印象が変わった。パンジーメディアに興味をわいた。検索してもっと深く知りたい。(中学3年)

●感想を読んだ当事者より

緊張したけどパンジーや自分のことをみんなに知って貰えてよかった。これからもやっていきたい。これからもいろんなところで講演をしていきたい。



クリエイティブハウス「パンジー」

クリエイティブハウス「パンジーⅡ」
従たる事業所 はっしんきち「ザ・ハート」

クリエイティブハウス「パンジーⅢ」

パンジーマディア

クリエイティブハウス「パンジーⅤ」

自立ホーム「つばさ」

自立生活支援センターわくわく / 相談支援センターわくわく

部門	クリエイティブハウス「パンジー」 GH (さくら101・201・301・はやぶさ・てくてく803・804・花吉)
各部門の目指す事	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが自分の役割に自信を持っている。 ・多くの経験を共有し、仲間意識を育んでいる。 ・心身ともに良好で、はつらつと暮らしている。
自分で決める役割を持つ	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・経験やスキルを活かし、他の人へ伝える・教える存在になっている。 ・自分の気持ちが言える、仲間の気持ちを聞く支え合いがある。 ・誰もが自分のやりたい事を楽しみ取り組んでいる。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・他部門からのパン実習を受け入れ、当事者間でパン作りを伝えたり、交流できた。 ・月に1度、かえる会からの提言をどらえもん会で報告し、困っている事や気持ちを伝えられる場を作ることができた。 ・金曜日の活動を充実させ、クッキング・ウォーキング・畑・ストレッチをローテーションし、毎月全員がすべての取り組みに参加できるようにした。
地域でふつうにくらす	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが健康的に、充実した生活を送っている。 ・医療的なケアが行き届き、安心した生活を送っている。 ・誰もがその人らしい生活を送っている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のウォーキング活動により、体を動かす生活習慣を作り、体づくりに取り組んだ。 ・2名の職員が喀痰3号研修実技を終える事ができた。喀痰が必要な当事者が、1日を通してパンジーへ通所することが可能になった。 ・当事者のライフワークをフィードバックすることはできなかった。来年度の課題とする。
職員を育てる	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者・家族と職員が支え合い、一緒に考え支援する事ができている。 ・積極性と責任を持ち、諦めない心を育てる。 ・当事者支援について、職員全体で考えることができている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援について改善が必要なことや困っていること等、家族と職員が一緒に考え、よりよい支援が行えるように密に連絡を取ることを行った。 ・職員全員が責任が持てるよう担当を割り当て、チーフが進捗確認を行っている。 ・毎週、同じ当事者の支援についてフィードバックを行い、情報共有した。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中：

2019年度の日中活動では、日々の活動に体を動かす機会としてウォーキングを取り入れ、すべての人が健康的な体づくりを進めていけるよう生活習慣の見直しを行いました。また既にパンジーでの食事では白米から玄米食に切り替えている事で、内側からも外側からも同時に健康を目指し取り組んでいくことを目標としました。その中で、少しずつ体重を減す事ができた人や、健康診断の数値が以前と比較して改善してきている人、そして太陽を浴びて外で体を動かす事から心の安定に繋がっている人など、少しずつ結果に表れてきています。

しかし一方で、職員一人ひとりの支援力にバラつきが見られ、活動を毎日継続するという原則を実行できない、それにより体制の変更を安易に行ってしまう状況もありました。今後の課題として、職員間で方針の一致を徹底すること、そして同じ熱量と方向性で業務に携わっていけるようチーム力を身につけていく必要があると感じています。

金曜日の活動では作業以外の取り組みを企画し、ウォーキングの他にクッキング倶楽部としてその日の自分たちの昼食を調理する取り組みや、花園地区で借りている畑でクッキングに使用するルッコラや青菜などの野菜を栽培する取り組み。そしてストレッチでは車イスの人もヨガマットへ横になり音楽を聴きながら体を伸ばしてリラクゼーションする時間など、金曜日の午前午後に分かれローテーションでグループ活動をし、毎月全員がすべての取り組みに参加できるようにしました。この取り組みでは、当事者一人ひとりが自身の役割を持って参加する事でモチベーションに繋がり、意欲的に活動している当事者の様子が各所で見られました。

一方で、それぞれの企画を見直して改善していくという働きかけが担当職員の間でできていなかったと感じています。企画をしたら終わりという事ではなく、必ずフィードバックしていくこと。今後の課題としては、ストレッチのプログラムの見直しを行い、当事者が意欲的に参加でき、リフレッシュできるよりよい取り組みとして継続していきたいと考えています。

パン屋では、他部門からのパン製造への派遣を受け入れ、当事者の活動の場を広げていけるよう取り組みを行いました。当事者が一緒に作業を行い、経験共有の中で生まれる仲間意識や、当事者間で自分の経験を人に伝えていく立場となり新たな役割を担っていくことを目標に取り組みを行いました。

グループホーム：

グループホームでは、4月から2名の当事者が自立生活をスタートしました。7月にはさくら101を立ち上げ、新たに2名がグループホームへ入居しました。それぞれに環境の変化がある中で、支援を見直して検討する必要性がありました。支援者間でフィードバックし、どう関わったか、適切な関わりになっているかという事を支援者がチームとなって丁寧に話し合う事で、少しずつ当事者の生活に安定が見え始めたことを実感しました。一方で、職員と介護者間の支援のずれや、職員による当事者・保護者との情報共有がうまくコミュニケーションできていない点もあり、今後の課題として、本人・保護者と職員が認識を統一してよりよい支援を見い出していけるよう取り組みたいと考えています。

部門	クリエイティブハウス「パンジーⅡ」／はっしんきちザ・ハート GH：春宮・花園・あじさい・コスモス・あかだ・たんぼぼ・つばさ
部門の 目指す事	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自分の存在・役割に自信を持っている。 一人ひとりの人生に寄り添いながら支援ができています。
自分で 決める 役割を 持つ	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> リラックス、アクティブ、のんびりの、各グループが、特色を持って活動できている。 当事者の活動の幅が広がり、充実した生活を送っている。 自分の気持ちが言える安心感と、人の気持ちを理解する支え合いがある。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> 上半期、各グループの活動に特色を持たせることに取り組んだ。しかし、空間を分けていることで職員同士の連携がとりにくいなどの課題があった。下半期は1階で全員が過ごすことで、多くの当事者に様々な職員が関わるできるようになった。また、今年度から始めたウォーキングやクッキングの活動も定着した。
地域で ふつう にくら す	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> 健康的に充実した生活を送っている。 多方面に渡る社会資源を活用し、安心した生活を送っている。 医療が必要な人も、安心して地域生活を送り続けている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> 訪問リハビリの作業療法士と連携し、介護マニュアル・ストレッチマニュアルを作成した。 大腸がんや腸閉塞で入院や手術が必要になった人など、医療との連携を図ることが重要だった。体調変化を訴えることが難しい人も多く、日々の変化にアンテナを張り、早期発見をし、適切な治療につながるよう支援をしていくことが課題。
職員を 育てる	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> 当事者の心の内に寄り添った支援をしている。 諦めない、めげない、くじけない心を持った職員を育てる。 当事者の可能性を信じて行動できる職員を育てる。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> 金曜日の活動が定着する中で、当事者とともに過ごす時間に喜びを感じられるようになってきている。一方で、ひやりはっとで振り返った事や、支援の中で一人の人として当事者の立場に立った視点を持つことは、まだまだ不十分だった。 ミーティングでは、表面的な話し合いが中心になっているので、当事者の成育歴や支援を振り返り、関わりの質を深めていける職員集団を目指す。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中

2018年にハートと統合されて2年目となった。2019年度はさらに作業環境を整え、より皆が過ごしやすい場となることを心掛けた。

また、日中活動の中で体を動かす時間を増やし、健康的なからだ作りに取り組んだ。ネイチャークラブやクッキングクラブなど、新しい活動への取り組みも始め、当事者が様々な経験を積むことができた1年だった。

今年度からネイチャークラブに参加した難波広明さん。階段の上り下りが苦手で、参加した当初はみんなのペースについていけず、1時間以上遅れて目的地に到着していた。活動中は、辛そうな表情をしたり、登山の下りでは怖さで常に腰が引けていた。難波さんにとって、ネイチャークラブの活動は本当にしたい事なのかわからなくなる瞬間もあった。しかし、活動の後いつも仲間にもまれて、「今日はどうでした？」と質問をすると、「楽しかった。また行く」と満面の笑みで答える。達成感ややりがいを感じている様子が伺える。そんな難波さんの姿を通して、限界やその人にとってのやりがいは、職員の価値観を押し付ては図れないのだと感じる。だからこそ、職員は表情の変化や当事者の言葉にしっかりと耳を傾ける事の大切さを改めて学ぶことができた。

パンジーⅡでは、今年2人の人を見送ることとなった。その一人、奥野学さん。細菌性肺炎の為、2019年10月21日に亡くなった。6月15日にパンジーⅡのホールで後ろ向きに転倒し、その時に頸部を打ってしまう。その後、リハビリをしながら自力で座位が取れたり、一時期は立ち上がることもできていた。しかし大腸からの度重なる出血が起こり、懸命に闘病生活を続けていたが、重度の肺炎を起こし、最後はお母さんの声掛けに反応して息を引き取られた。

普段から人と関わるのが好きで、スキンシップをしてたくさんコミュニケーションを求めている奥野さんの姿を今も忘れることができない。

グループホーム

奥山賢治さんは10歳のころから児童施設に入り、パンジーに地域移行するまでの50年近くを入所施設で生活されていた。奥山さんは地域で生活を始めて、話す言葉が増えた。近所のお店の人と毎朝・夕にあいさつを交わした。空を見上げて、飛行機を見つけると嬉しそうに「飛行機や～」と教えてくれた。2017年には、ネパール旅行に行き、ヒマラヤを望むマウンテンフライトで、飛行機に乗る喜びときれいな山々をみて大興奮していた。

そんな奥山さんが、2020年4月7日に息を引き取られた。71歳だった。今年の1月末に、虫垂炎を発症し、開腹手術をされ、一時は退院することができたが、退院後食事をとることができず、3日後には再び入院した。その2週間後のことだった。

奥山さんを通して、私たちの仕事は「命」に直結しているということを深く感じた。だからこそ、1日1日が一人の人の命と向き合う大切な時間と感じながら支援をしていきたいと思う。

	<p>クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 GH（コスモス・青空・こうのいけ・もくもく・よしだ809）</p>
部門の目指す事	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動を楽しんで、輝いている。 ・自分の生活を楽しみ、健康的に過ごせている。 ・仲間のことを大切に考え、助け合える関係をつくる。
自分で決める、役割を持つ	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者それぞれの役割があり自信をもって主体的に動いている。 ・山岳部の活動やメディア・当事者活動が日中活動に定着している。 ・料理や、自分のしたいことを楽しんでいる。 ・食材や調理方法を検討し、健康的で安全な食事を提供できている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房、軽作業、掃除担当を決めて取り組んだ。自分の役割と感じ主体的に動く人が増えた。 ・ネイチャークラブの活動に参加した。毎日のウォーキングは日中活動に定着している。 ・料理は毎週できているが、自分のしたい事を見つける支援が不十分だった。 ・玄米、いりこ・昆布の出汁でみそ汁を提供することができた。
地域でふつうにくらす	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの生活が自分らしいものになって楽しめている。 ・余暇活動が、趣味や外出先が広がり充実している。 ・医療が必要な人も安心して生活できている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や、フィットネスに通うなど楽しく生活をする人が増えている。 ・外出先を積極的に広げることができなかった。 ・訪問看護に来てもらって、その都度医療のことを相談することができた。
職員を育てる	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者を尊敬できる職員を育てる。 ・当事者の可能性を信じて関われる職員を育てる。 ・かかわりの基本を大切に、チームとして支援を継続して行えている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・パンジーメディアの『私の歴史』を見たり、研修への参加を通して当事者のことをより深く考えることに取り組んだ。 ・先回りして職員が考えてしまい、当事者の話を十分に聞くことができていなかった。 ・日々のミーティングで振り返ったが、職員個人で行動することもあり、チームワークがとれないことも目立った。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中

2Fでは新しくハンガーの仕事に取り組んだ。たんとんと作業をしていると、あるテーブルでしりとりが始まった。みそ→そうじき→きつね・・・結構やりとりが続く。職員も当事者もその言葉あり、なしと審判をしていた。「り・・・」「リーリーの缶詰」と言った中谷さん、職員のほうが年下でその言葉を知らず『なし』となった。しかし、奥で仕事をしていた事務員さんからちょっと待ったコールがかかり、説明を受け『あり』になる。どんな缶詰？ まだ売っているの？ など色々な話に発展していき、みんなの想像が膨らんだ一日だった。一回食べてみたいそうなので近々おやつにでる予定。

9月にパンジー旅行で淡路島に行った。遊園地で石橋さんがおそろおそろ馬に乗っていた。怖そうな表情をしているがいざ走り出すと、背筋が伸びて乗馬姿もさまになっている。あとに続くように、樋口さんも挑戦をしていた。普段は車椅子に乗っているがフォローがあれば乗馬もできることを改めてわかった。

グループホーム

いりこ、昆布のみそ汁と玄米を毎日食べている。私もそうだったが、いりこと昆布の出汁のとりかたがわからなかった。最初はいりこの頭をとっていたが、最近はまるまる入れて、食べるようにしている。昔の人はそのようにしていたらしい。いりこは煮だすことで味が深くなる。豆腐の味噌汁でも味が変わり、おかわりを言われることが多くなった。おいしい食事は元気のもととなると思って続けていきたい。

池田さんは自分の掃除機で毎日掃除している。その掃除機が壊れてしまったため、池田さんにどんな掃除機がほしいですか？ と尋ねると、「ピンクがほしい」とのこと。そこでピンクの掃除機を探しに、電気屋さんに行くと、ピンクの掃除機が何台かあった。池田さんは「これがいい」と選び、早速自室で掃除をする。その様子をみんなで見て「いいのん見つけたやん」と声をかけられてなお嬉しそうだった。よしだの福田さん、加藤さんは毎週末の朝にマクドナルドに行ってコーヒーを飲んでいて。しかし最近ではコロナの関係でドライブスルーの持ち帰りしかできないのが不満そう。マクドナルドのコーヒーがおいしいというより、店の雰囲気も含めておいしいのだと改めて気づいた。グループホームでもコーヒーを飲むが、早く自由に出かけてマクドナルドに行きたいと思っている。

部門	パンジーメディア
部門の目指す事	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害を持つ人たちの現状や地域で暮らす大切さ知ってもらうために、毎月『きぼうのつばさ』を発信している。 ・当事者が役割を持ち、メディアの活動に自信を持って取り組んでいる。 ・『きぼうのつばさ』の英語版放送を始めている。 ・上映会、本の出版、講演会など積極的に活動をしている。
自分で決める、役割を持つ	2021年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・「パンジーの眼」のブレイン会議が充実し、自信をもって当事者が発信している。 ・ディレクターズクラブが充実し、自分たちの作品を発表している。 ・キャスターやコメンテーターなど、役割を持った当事者が増えている。
	達成度
地域でふつうにくらす	2021年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなに障害が重くても地域で暮らせることを様々な方法で発信している。 ・当事者の生き生きとした生活を発信している。 ・『きぼうのつばさ』を見ている人が増えている。
	達成度
職員を育てる	2021年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア担当の職員は、よりよい番組が作れるようになっている。 ・メディアの活動を通じて、より深く当事者を理解する。 ・全職員が何らかのメディアの活動に参加している。
	達成度

- ・メディア担当の職員が深く考え行動をできるように、月に2回、ワークショップを開催している。
- ・新しく4名の職員が定期的に関わるようになった。今後は、それぞれのポジションで当事者の思いに気づき、それを表現できるようになってほしい。
- ・私の歴史の原稿作りを支援した職員は、これまでより深く当事者のことを理解するようになり、二人の関係が深まっているのを感じる。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

私の歴史は、文章を読むのが難しい人が、出演を希望することが多くなりました。

豊田さんは、ひらがなの原稿を何度も読む練習をしました。そして、撮影の当日、ゆっくりゆっくり読み始めました。ヒマラヤに登って発作を起こした時の場面で読むことができなくなり、一部分を小川さんに読んでもらいました。それでも、最後のお母さんへの思いは自分で読みました。

大深さんは、文字は書けても読むことはできません。そこで、大深さんの歴史は、お母さんの手記をベースに作ることにしました。小さい頃の大深さんの写真を、職員と二人で見ている場面を撮影している時でした。何枚もの写真をめくる大深さんの手が止まり、表情が柔らかくなりました。それは、お母さんに抱かれている小さい頃の大深さんの写真でした。

岡本さんも、字が読めません。撮影は、岡本さんから聞き取ったことを、職員が読むことにしました。岡本さんは、職員が読む言葉に大きくなずいたり、職員の問いかけに当時の気持を話してくれたりしました。

3人とも、文章を声に出して読むことはできませんが、勇気を出して「私の歴史に出たい」と伝えてくれました。そして、それを実現しようとする職員とメディアのスタッフがいました。出来上がった歴史は、観た人の心の奥にまで「あたたかいもの」が届く作品になっています。決して、文字が読めないことがマイナスにはなっていません。その後、職員との関係は、より深くなったことつけ加えて、終わりにします。

部門	クリエイティブハウス「パンジーV」 生活介護 就労支援B型 ショートステイ
部門の目指す事	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信をもって、安心して通えている。 ・食事や運動を楽しんで、健康的に過ごせている。 ・カフェやホールを地域の人がパンジーVを利用している。
自分で決める、役割を持つ	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持っていきいきと作業などにとりくんでいる。 ・地域の人がパンジーのイベントに参加している。 ・ピープルファースト運動に当事者が積極的にかかわっている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが初めてのパンジーVでしたが、畑仕事、カフェなど、自分の仕事として取り組めていた。ウォーキングも定着している。 ・コンサートや農業の講演を開催し、多くの参加者が参加した。 ・ピープルファースト大阪大会には7人の当事者が参加することができ、元気の出る話でみんな発言できた。
地域でふつうにくらす	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームが1つでもつくられている。 ・ショートステイが、自立に向けたステップになっている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度にグループホームはつくれていない。2020年度につくる予定にしている。 ・ショートステイの利用は多く、それぞれのスタイルで自立に向けて生活した。まだ利用を始めたばかりの人もあるので、自立に向けたショートステイにしていきたい。
職員を育てる	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者を尊敬して関わっている。 ・当事者の可能性を信じて支援している。 ・当事者や保護者との信頼関係が気づけている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者に敬意をもってかかわるように心がけている。 ・当事者の可能性を信じ、内面・外面からのアプローチにより、一緒に取り組んでいる。しかし、まだまだ課題もある。 ・保護者とも信頼関係を築けるように連絡をとったり、話をしたりしているが、まだまだ始まったばかりで、不十分な点もある。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中

2019年4月に香川県高松市にパンジーVをオープンし、最初は日中登録者4人、毎日2～3人の当事者が通うところからのスタートでした。それから1年で、日中登録者16人、毎日1人以上が通うようになりました。

畑を3カ所（V前、今里、滝宮）に作り、無農薬で化学肥料を使わずに野菜を育てました。初めてのことで、当事者もスタッフも分からないことばかりで試行錯誤しながらの挑戦でした。採れた野菜は昼食やカフェで提供し、有機野菜を大切に扱ってくれる春日水神市場に出荷しています。大量に採れたサツマイモの味が薄かったりと不出来な時もありますが、形が悪くても昼食にしたり、保護者や大阪のパンジーに買ってもらったりしています。昼食は玄米ご飯や自分たちで育てた無農薬の野菜、地元の食材を中心にした健康的な食事を提供しています。パンジーVで運営しているカフェでも昼食と同じメニューを提供し、好評でした。残念ながらカフェは9月には人間的な問題から一時休止しました。

ウォーキングも定着し、パンジーV周辺の街中、本津川、勝賀山などに出かけています。香川が車社会のためか、全体的に大阪の人よりも体力のなさを感じます。ウォーキングで少しは体力もついたと思いますが、金曜日の活動で普段とは違うところにハイキングに行き、歩きにくい山道があると、まだまだ不慣れな感じです。

当事者も1年間でいろいろありました。4月から週2日通っていた内田さんは、10月から毎日通うようになりました。その後、調子を崩し、家では夜間に何度もトイレに行き、不眠が続き、パンジーでも外出するのを嫌がり、トイレに何度も行くようになりました。保護者は困惑し、支援者も理由がはっきりと分かりませんでした。パンジーに毎日通うようになった環境の変化に対する不安やストレス、泊りがけでピープルファースト大阪大会に参加してリズムが変わった、尿に関する体の異常があるのではなど、いろいろ考え、保護者との話を重ね、アドバイザーの池下さんに相談し、要因とできうる支援について考えました。結果、病院で排尿障害と診断され、投薬での治療を経て治まったためか、すっかり復調し、眠れるようになり、毎日、笑顔で通所も外出もできるようになりました。外出を嫌がったのは、車に乗っている間、トイレに行けなくなるからという内田さんなりの理由がありました。不安やストレスがなかったとは言いきれませんが、保護者や支援者より、内田さん自身が自分のことを一番、分かっていたのかもしれない。そんな紆余曲折を経て、当事者も保護者も職員も育っていく1年でした。

年明けにはコロナが流行し、香川県は比較的感染者が少ないとはいえ、対岸の火事ではいられませんでした。4月再開を目指して準備してきたカフェの再開も延期となり、検温、消毒、換気の徹底など日々の生活にも大きく影響しました。

これからも人が増えていき、様々なことが起こると思いますが、当事者・保護者・関係者すべての協力を得ながら、一緒に成長していきたいと思っています。

部門	自立ホーム「つばさ」
部門の目指す事	<ul style="list-style-type: none"> ・その人にあった支援で、その人らしい生活を送る ・イベントを盛り込み、余暇や生活の充実を図る ・安心できる環境と、気持ちに寄り添える支援をめざす
自分で決める、役割を持つ	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりたいこと、決めたことを実現している ・その人にあった役割を持ち、充実している
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分やりたいことなどを決めて実現するまでに世話人とも話を重ねて実行できた方もいたが、自分で言えない方の自己実現を、支援者で共有し、どのように実現するかが大きな課題でもあった。 ・支援者が支援しすぎる場面も多く、当事者一人ひとりの役割が薄くなったこともあった。
地域でふつうにくらす	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年通してイベントや趣味など充実させ生活を楽しめている ・医療が必要な方も、安心して生活できる環境や支援を継続させる
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなイベントはなかったが、各ホームでは、それぞれ外食やホームパーティなどは行っていた。 ・「パンジーキッチン」で紹介されたメニューを作り、楽しんでいたGHもあった。 ・趣味を広げるとこまでは至っていない現状もある。 ・医療が必要な方への介護技術の向上が求められ、共通した介護スキルを全体で統一する必要があった。次年度は、会議や研修の充実をはかりたい。
職員を育てる	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づいた関わりができています ・当事者の力を信じられる職員を育てる
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・GHの当事者からの希望で、当事者会議が再開した。当事者会議で当事者から出される意見や、困ったことについては、法人で話し合い、なるべく早く改善を行った。 ・当事者が安心して暮らせるGHになるように、介護者会議でできるだけの話し合いを持った。朝ミーティングなど、介護者とのコミュニケーションの必要性をさらに感じている。次年度も課題である。 ・当事者が話をしやすいような雰囲気を作ることもこれからの課題である。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

グループホーム

2019年度はグループホームの当事者も年々歳を重ね、平均年齢も上がり、色んな面で医療と関わるようになってきた。普段と様子もあまり変わらない方も、体のどこかで悲鳴をあげていることもある。なかなか自分で言えない方も多いため、健康診断の結果や、日ごろの通院での採血から色んな症状の可能性が見えてくることもある。

採血での数値が低く、精密検査をすると大腸癌が見つかり、数日後には手術をすることになったIさん。手術は成功し、今も病院で術後観察中である。パンジーに通いだした時は嘔吐することも多かったが、年々嘔吐することも少なくなり、体調がよくなっていると感じていたため大腸癌が見つかったときには驚いた。“もう少し早く気づけたのではないか？”“どうだったのか？”と自問しながら入院に付き添った。早く良くなってほしいと願い続けた。

今後できることとしては、健康診断の結果や、日々の体調に少しでも疑問があれば、主治医に相談して最善を尽くすことをしていきたい。その人の人生と向き合ってより良い医療を受けられるよう支援していきたい。

毎日の生活の中で、1人ひとりが余暇の充実や生活に満足しているかということを考えて。余暇を楽しむことが必要な方もいれば、支援者とコミュニケーションや、人と触れ合うことを望んでいる当事者も多い。もう一度、原点に戻ってコミュニケーションに重きを置き、充実した日が送られることを目指さないといけないと思うことが多かった。

ハード面の生活改善としては、てくてく、花吉、鴻池、青空、コスモスの改装やたたみの入れ替えを行った。また電化製品購入の基準作りを行った。2020年度も順次必要なグループホームの改装を行い、生活しやすい空間にしていく。

当事者から求められている支援者像とは何か？ と考えることがある。GH当事者会では、「なんでも話しやすい支援者」「親身になって考えてくれる」「障害のあることを理解してくれる」ような支援者になってほしいと希望がでてくる。今後もGH当事者会議から出たことは真摯に受け止めて、より当事者にとって良いくらしになるために改善していきたい。一人ひとりの支援者が成長するためにも当事者の意見は大事にしたい。支援者一人ひとりの自覚が問われている。

部門	自立生活支援センターわくわく / 相談支援センターわくわく GH（もくもく308・よしだ808）
部門の目指す事	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を取り戻し、自分らしく、生きている。 ・支援者がチャレンジ精神を持ち、当事者とともに、成長する。
自分で決める、役割を持つ	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・同年代と同じ楽しみや生き方を選ぶことができています。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌やインターネットを活用し、情報提供を行った。映画や、ホテルのランチバイキングなどは、楽しみとして定期的に行くことができています。 ・音楽フェスやコンサート、フードフェス、プロ野球観戦、冬季クリスマスイルミネーションなど季節のイベントに参加し楽しむことができた。 ・就職や福祉サービス、住まいなどの相談に関わることで、本人らしい生活が維持できるように支援できている。しかし、より豊かな生活への支援までは出来ていないことも多い。相談員共々、自分らしい、よりより生活とは何かを向き合っていく必要がある。
地域でふつうにくらす	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な環境にあっても、自分の暮らしに誇りを持っている。 ・支援者と信頼関係を築いて、自分の思いを伝えることが出来ている。
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドヘルパーを派遣し、ペン字教室・習字教室、絵画教室など地域の習い事に5名の当事者が継続して参加できた。 ・本人を中心としたケース会議を随時開催することができている。家族や周囲の支援者らの考えで本人の人生が決められるのではなく、本人の意思に添った形で支援することが出来ている。
職員を育てる	2019年の姿・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者が当事者を尊敬した配慮、言葉遣いができるようになっている ・事業運営が安定し、課題に適切に取り組める環境になっている
	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・登録ヘルパーへの研修は、継続的に開催できなかった。年度途中で管理者が変更し引き継がれるなかで、人材育成の研修が後回しになっていった。 ・会議などの特別な場ではなく、日常の場面で本人の思いをどう引き出していけるか、ヘルパーや相談員が研修などを通じて、力をつけていく必要がある。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

相談部門

委託相談支援として 2019 年度は、計 86 人からの新規相談があり、実人数で 182 名（相談の総件数は 3306 件）の相談者への対応をしてきた。新規の相談者は毎月 5～10 人程度あり、そのうちの約半分の相談者に継続して関わっている。相談内容としては、福祉サービスの利用に関することが約 2000 件と一番多く、続いて生活困窮など経済面での相談、また精神障害の方の相談が増えてきたことで、精神科訪問看護の利用など医療面での対応も増えてきている。

複合的で多くの困難を抱える家庭が年々増す中、訪問看護、ヘルパー事業所、学校などが密に連携しあうことで、措置入院を回避できたり、児童虐待につながりかねない要支援家庭でも、様々な職種の人とつながることで安心して暮らすことができている。

筋ジストロフィーの 56 歳の男性からの相談があった。脳梗塞・喘息の持病があり、父親と 2 人で生活保護を受けながら暮らしている。これまで高齢の父親の支援を受けてきたが、筋ジスによる機能低下でほぼ寝たきりの状況になった。父親による介助も限界になり、まさに共倒れになる差し迫った段階での相談であった。親子とも福祉制度を利用したことがなく混乱した様子だったので、制度を説明して丁寧に本人の要望を聞き取る。その結果、居宅支援（重訪）及び訪問リハビリの必要性をくみ取り、サービスの利用につなげた。また 10 年以上も使っていた車いすの更新と、トイレ手すりなどを申請し設置する。その後も定期訪問を継続している。相談する相手が身近にいることで不安が解消され、リハビリ効果で本人の身体機能が良くなっていることもあり、相談前にはなかった明るい表情が見られるようになった。

居宅部門

2019 年度は、のべ 751 名の利用者に（1047 回、11300 時間）派遣を行った。

行き先として、音楽フェスやコンサート、フードフェス、プロ野球観戦、冬季クリスマスイルミネーションなど季節のイベント、映画や、ホテルのランチバイキングなど個人の趣味や楽しみ、ペン字教室・習字教室、絵画教室などの習い事に、ヘルパーを派遣した。それぞれが、人生を豊かに過ごすための手伝いは出来たと感じている。

ただ、全ての人に満足できるサービスや支援を提供することはできておらず、サービス提供責任者が適切にヘルパーを育て、ヘルパーの実力を底上げすることが今後の課題と感じており、サービス提供責任者も研修などで学ぶことは必要だと実感している。

また、通院や家事援助、重度訪問介護など生活にねざした派遣は例年通り行うことができた。2019 年度は新型コロナウイルスの影響で、3 月のヘルパー派遣が大幅に減る事態となった。今後も新型コロナウイルスの影響が残る間は、感染拡大に注意を払いつつ、当事者のストレスや不安を解消できるよう、ヘルパー派遣にさらなる工夫と努力が必要と感じている。